

令和5年度事業報告

○ 新潟市歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等

1 文化事業

「新潟市域の歴史的特性を明らかにし、市民の歴史に対する理解を深めると共に、歴史を媒介とした市民交流を行うことにより、市民の社会的活動及び文化的活動に寄与する。」という博物館の設置目的を達成するため、以下の各種事業を行った。

(1) 展示運営更新

人と水の関りをテーマに新潟市の歴史を紹介。学芸員やボランティアによる展示解説を行った。また、川村修就コーナーの展示ケースを、4月・7月・9月・1月・2月の5回、展示替えした。

(2) 企画展示事業

興味深いテーマを設定し、地域の歴史・文化を楽しく分かりやすく市民に伝える展示を行った。今年度は指定管理事業として以下の4本の企画展を開催した。

① 「長井雲坪」展

幕末から明治にかけて活躍した沼垂出身の画家長井雲坪は、長崎で画を学び、一時新潟へ帰郷したが、おもに長野を拠点に活動した。長野で所蔵されてきた一大コレクションを借用し紹介した。

開催期間 令和5年4月8日～5月28日 44日間

観覧者数 2,674人（うち有料観覧者 1,486人、無料観覧者 1,188人）

② 「川村修就と新潟」展

天保14年、新潟町は幕府の領地となり、その管理のため「新潟奉行」が新たに設置された。初代新潟奉行となった川村修就の子孫が新潟市へ寄付した貴重な史料から、新潟奉行設置の経緯や激動の時代を生きた川村家の歴史を伝えた。

開催期間 令和5年7月22日～9月3日 39日間

観覧者数 3,136人（うち有料観覧者 2,023人、無料観覧者 1,113人）

③ 第20回むかしのくらし展「どうぐのどうぶつえん！」

くらしの中で使われる道具には、動物の名前や姿かたちからヒントを得たものが数多く存在する。身近な道具から、動物と私たちのくらしとの関りについて紹介した。

開催期間 令和5年9月16日～12月3日 65日間

観覧者数 6,891人（無料観覧者）

④ 「収蔵品展・新収蔵品展」

館収蔵資料を効果的に公開するため、テーマを設けて資料を紹介する収蔵品展を毎年開催している。今年度は「いろいろな地図を見る」をテーマに、明治から平成の新潟市の移り変わりを地図で紹介した。また、令和5年度に新たに受け入れた資料を紹介する新収蔵品展を

開催した。

開催期間 令和5年12月16日～令和6年1月28日 32日間
観覧者数 1,931人（無料観覧）

(3) 教育普及事業

新潟市の歴史文化への市民の関心や興味のニーズに対応するため、ボランティアなどの人的資源や博物館が有するモノや情報、ライブラリーなどを活用して、歴史に関するさまざまなサービスの提供や活動の提案を行った。

① 体験の広場事業

ボランティアスタッフの協力も得ながら、体験の広場の設備や道具を活用したプログラムのほか、館外での活動も含め、小学生や家族連れ、大人に限定したものなど各種の体験プログラムを計50回実施した。

② 博・学連携事業

小学校67校・中学校22校を受け入れ見学に際し展示解説等を行った。そのほか、学校へ出向いて行う授業を小学校6校・中学校1校で実施した。また職場体験では中学校4校、小学校1校から生徒を受け入れた。新潟大学と連携して開講している寄附講義「ミュージアム論」に学芸員を講師に派遣したほか、あらたに新潟大学の「日本・東洋美術史」にも学芸員を派遣した。大学生を対象とする館実習は、通年および夏休み期間集中の2本を実施した。

③ 講座事業

調査研究事業の成果を公開し、新潟の歴史や文化に関する「学び」や「楽しみ」を提案することを目的に、幅広いニーズに対応するための以下の各種講座を開催した。

・博物館講座 全10回、歴史講座「浜・潟・山の歴史とくらし」全4回 館長講座 全4回

④ ボランティア事業

敷地ガイドや常設ガイド、体験の広場のプログラムの実施・補助として活動するボランティアを養成するとともに、その活動を支援した。当年の新規希望者は一般が16名、高校生16名。全登録者数129人。

(4) 施設普及事業

博物館の活動を広く市民に知ってもらうため、リーフレットや「博物館ニュース」(3回)、年報などの出版物を作成し、新聞・雑誌等を通じて館の広報活動を行うとともに、以下の事業を実施し、博物館の利用推進を図った。

① 地域連携事業の実施

博物館近隣の市民団体と共催で「夕涼みコンサート」(8/19)および「みなと・しもまち・川まつり」(8/27)を開催した。また、コロナ禍前には例年開催していた「堀と桜のコンサート」は、今回も実施されなかった。

② みなとびあファンクラブ

博物館の情報を定期的に会員に向けて提供した。また、会員向けの企画展鑑賞会をはじめ、バスツアー「城下町村上」(6/4)、まちあるき「亀田のまちと砂丘跡を歩く」(10/28)、館長

講演会「大化の改新と淳足柵・磐舟柵」(12/3・1/14)、学芸員による講座「絵図にみる新潟ゆかりの有名人」(2/11)を実施した。

(5) 調査研究事業

主に企画展示や収蔵品展に関連した調査・研究を実施した。

そのほか、学芸員の専門分野における研究や館活動を通じた資料調査も随時行い、その成果は博物館講座を通じて市民に報告・還元するとともに、主なものを『研究紀要 20号』にまとめた。

(6) 資料整理事業

寄贈を受けたり、購入したりした歴史・民俗・美術・図書等の資料を長期的に保存・活用することを目的に、以下の事業を行った。

① 保存環境管理

館蔵資料の長期保存のため、展示室やケースなどの展示施設をはじめ、収蔵施設である本館収蔵庫・旧木場小学校等について、各種の保存環境調査や清掃、防虫対策のためのくん蒸など、IPMに則った各種の保存環境管理を行った。

② 資料収集整理

地域の歴史を語る資料を収集するとともに、資料を管理し活用するために、資料の基礎的データや資料の詳細情報を調査・記録した。

(7) 自主事業「歴史発見プロジェクト」

新潟の歴史に親しみ、自らが歴史を発見する喜びを知ってもらうため、今年は12の企業から協賛をいただき、歴史を題材とした以下の自主事業を行った。

① 企画展

「1964」展

世界最速の新幹線が走り出し、アジア初のオリンピックが東京で開催された1964(昭和39)年、新潟では国体が開催され、その直後に大地震が発生した。昭和史に残る出来事が続いた1964年を振り返った。

開催期間 令和6年2月17日～3月24日 30日間

観覧者数 2,870人(常設観覧券購入者に限定)

② 古文書解説上達講座

古文書学習の経験者を対象に上達のコツを教える全10回の古文書講座。参加登録者38名。

③ こども歴史クラブ

小学生を対象にクラブ員を募り、古代から近現代までの人々の暮らしに関わる全11回の体験プログラムを実施した。クラブ員23名。

④ 大人の体験プログラム

「はじめての水墨画」(5/14) 会場：たいけんの広場 参加者13名

⑤ 特別講演会

富田和気夫氏（石川県金沢城調査研究所所長）「新潟できく金沢城とその石垣の話」（11/3）
会場：ミュージアムシアター 参加者 62 名

⑥ 古町学

旧新潟町エリアを学びの場とし、市民参加によって歴史・文化・魅力を掘り起こす地域学として実施。

○古町こども研究所

- ・小学生研究員は「白山公園いまむかし 名所すごろくをつくろう」をテーマに、白山公園の現地踏査（9/10）、それを基にすごろくを作るワークショップ（10/7）を行った。参加者 5 名
- ・中学生研究員は「信濃川」を大テーマに設定し、研究員それぞれが独自のテーマを掲げ、指導する学芸員のもと、各自のペースで調査研究活動を行った。参加者 3 名

⑦ 外部への講師派遣

民間や公民館、その他団体主催の講座・講演会等へ、学芸員を 41 回講師として派遣した。

2 文化施設管理受託事業

歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等管理事業

市民に親しまれる博物館を目指して、利用者へのサービスの向上に努め、歴史博物館及び旧新潟税関庁舎等の管理運営を行った。

（1）歴史博物館管理事業

- ① 博物館本館（常設展示室、企画展示室、ミュージアムシアター、体験の広場、セミナー室、情報ライブラリー等）
- ② 旧第四銀行住吉町支店（応接室、会議室、日本間）
- ③ 屋外施設（広場、堀、園路等）

（2）旧新潟税関庁舎等管理事業

- ① 旧新潟税関庁舎
- ② 史跡（石段、石積み、石庫等）

（3）信濃川左岸緑地管理事業

3 付帯事業

来館者に対するサービスの充実を目的に、歴史に関する書籍やグッズ類を扱ったショップ

の運営や自動販売機の設置を行った。

- ① 物販等ショップの運営
- ② 自動販売機の設置
- ③ 企画展関連物販

「むかしのくらし展 どうぐのどうぶつえん！」展の開催にあわせて、動物関連のグッズを販売した。

【協力店舗】・ひとつぼし雑貨店

※ 令和5年度歴史博物館入館者数 78,781 人